

東三河産学官交流サロン

佐藤元彦 前愛大校長

豊橋市内で15日夜開かれた第374回東三河産学官交流サロン(東三河懇話会主催)で、前愛知大

学学長の佐藤元彦氏が「大学改革の真っ只中で」と題しスピーチした。

国から注目される愛大をめざすこととしたと述べた。

04年10月に三遠南信地域連携センターを立ち上げようと

した時に、愛大の名は知られているが、愛大がどのような取

新たな知のトライアングル創生に意欲

務めたが、任期を通じて心がけた事は「原点を忘れずに、常に現代的展開をはかる」とし、特に「社会的存在としての愛大」をめざし地域貢献という点で全

組みをしているのか、がほとんど知られていなかった事に大きなショックを受け、同センターを愛大初の「新しい公共」を担う機関と位置づけ、正規の委員とし

て行政、経済界、NPO、マスコミ等の学外関係者に参画いただいたのはそのためだという。

12年6月からの文科省による「大学改革実行プラン」で愛大は、「経済社会の発

展を牽引するグローバル人材育成支援事業」に採択された。これは全国で42大学、中部圏の私大では唯一選ばれた。

愛大は1901年創立の東亜同文書院が大きな課題であったが、49年には名古屋分校が設置され、2012年4月に名古屋校舎を開校し、グローバル人材養成を目指し、豊橋校舎は地域社会の貢献、

車道校舎は高度専門職業人育成の「知のトライアングル」が確立した。

17年春には、さき今後とも愛大は長

期的展望に立つて



スピーチする佐藤元彦氏

「地域「グローバル」の要素を取り込んで新たな「知のトライアングル」の創生に向かうという。

リニア新時代の到来に伴う「スーパーメガリゼーション

(関東圏と中部圏の一体化)」形成を踏

まえた戦略へ、佐藤氏の挑戦は「まだまだこれから」を印象づけたスピーチだった。会場では、恒例の大抽選会も行われ、今年最後の交流サロンを締めくくった。(伊藤秀昭)